



# 校長室だより

校長 山崎 聡子

## 第55回卒業式

3月19日(水)に、卒業式を挙行いたしました。今年度は、多くの御来賓の御臨席を賜り、卒業生が大きく成長し、巣立っていく姿を見守っていただきました。今年度の卒業生は、1年生の時に相武台東小学校が50周年を迎えた時に入学してきた子供たちでしたので、関係のある方々に、6年間で大きく成長した子供たちの姿を御覧いただくことができ、大変うれしく思いました。また、保護者の皆様におかれましても、幼かった子供たちが、立派に成長した姿に感慨もひとしおのことであったことと思います。

卒業式には、在校生を代表して5年生が参加しました。6年生の堂々とした頼もしい姿に触れることができ、これから、最高学年として学校を引っ張っていくという思いを引き継ぐことができた時間となったことと思います。門出はあいにくの雨で、校内で行う形となりました。校歌と螢の光の鼓笛の生演奏で送り出すために、一生懸命練習してきた5年生にとっては、残念ではありましたが、5年生がしっかりとアーチを持ち、温かな拍手を送る中、無事に卒業生全員を送り出すことができました。5年生の皆さん、ありがとうございました。

門出がスタートする前に、卒業をしていく児童会長から、放送で最後の言葉がありました。紹介します。

今日は、お忙しい中、私たち6年生のためにお集まりいただき、ありがとうございます。私たちは、今日、この相武台東小学校を卒業

し、未来への大きな一歩を踏み出そうとしています。

私たちの学年は、ふざけていたり、授業をまじめに受けなかったりして、先生方も大変だったと思います。しかし、素直ではないけれど、周りの人に思いやりの心が持てる、いつもみんなが笑っているような、楽しく、おもしろい学年だったと思います。私にとって、このクラス、学年は、みんなが認めてくれる、大切な居場所でした。なので、私自身、まだ卒業したくない気持ちでいっぱいです。しかし、私たちがこの相武台東小学校の児童でいられるのも今日で最後です。みんなと一緒に笑い合えた時間がかけがえのない時間だったのでなと感じました。みんなと一緒にいられるのも今日で最後なので、門出の瞬間も大切にしたいと思います。

また、小学校で過ごした6年間は、私たちの今までの人生12年間の半分という、とても長い時間でした。しかし、この6年間は、とても充実していて、楽しく、長いようで短く感じられました。それは、今まで支えてくれた両親、先生方、友達、用務員のみなさんや地域の方々のおかげです。小学校で過ごした6年間の経験を活かして、中学校でも頑張っていきます。今まで本当にありがとうございました。

私の目をまっすぐに見て、堂々とした態度で卒業証書を受け取った卒業生。小学校で学んだことを活かし、美しい心を大切にしながら、周囲の方々への感謝を忘れずに、力強く歩んでほしいと思います。一人一人に幸せな未来が広がっていくことを祈っています。